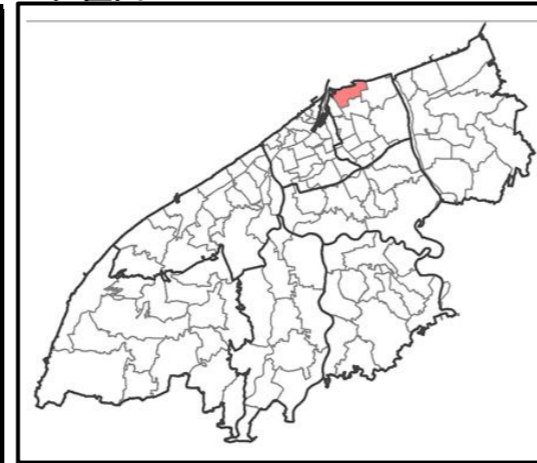


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

秋葉1丁目		
秋葉通2・3丁目		
空港西1・2丁目		
河渡		
宝町		
浜谷町1・2丁目		
船江町1・2丁目		
平和町		
物見山2丁目(一部)		
桃山町1・2丁目		
臨港町2・3丁目		

●位置図

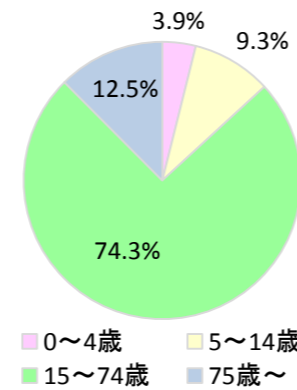


●施設・団体

市役所・区役所等	—
警察・消防	秋葉交番
消防団	東方面隊 山の下分団
水防倉庫	—
一時避難場所	山の下海浜公園、牛海道中央公園、秋葉自然公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 桃山保育園、船江保育園
	高齢者 福祉施設 桃山園
	障がい者 福祉施設 共同パッケージ

●人口

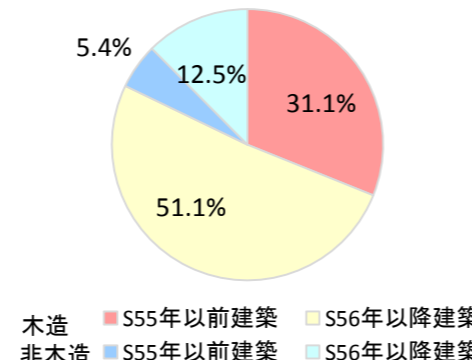
総人口	14,169人	地区の割合	市の割合
0～4歳	552人	3.9%	4.0%
5～14歳	1,316人	9.3%	8.5%
15～74歳	10,533人	74.3%	74.6%
75歳～	1,768人	12.5%	12.9%
65歳以上人口	3,634人	25.6%	26.0%
世帯数	6,109世帯		
一世帯あたり人口	2.3人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	3,627人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	10,977人	夜間の77.5%	



●建物関連指標

総棟数	5,029棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	1,563棟	31.1%	44.2%
S56年以降建築	2,568棟	51.1%	46.7%
計	4,131棟	82.1%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	271棟	5.4%	3.4%
S56年以降建築	627棟	12.5%	5.7%
計	898棟	17.9%	9.1%
S56年以降建築物	3,194棟	63.5%	52.4%

S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震  
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]桃山小学校	1.4	4	○	3階以上	全階可	—
[ヒ][ツ]山の下中学校	-0.4	4	○	3階以上	全階可	—
[ヒ]新潟朝鮮初中級学校	1.1	2	×	×	2階以上	—
[ツ]新潟臨港病院	-0.6	7	—	3階以上	—	—
[ツ]船江保育園	0.7	3	—	3階	—	—
[ツ]桃山園	-0.5	4	—	3階以上	—	—

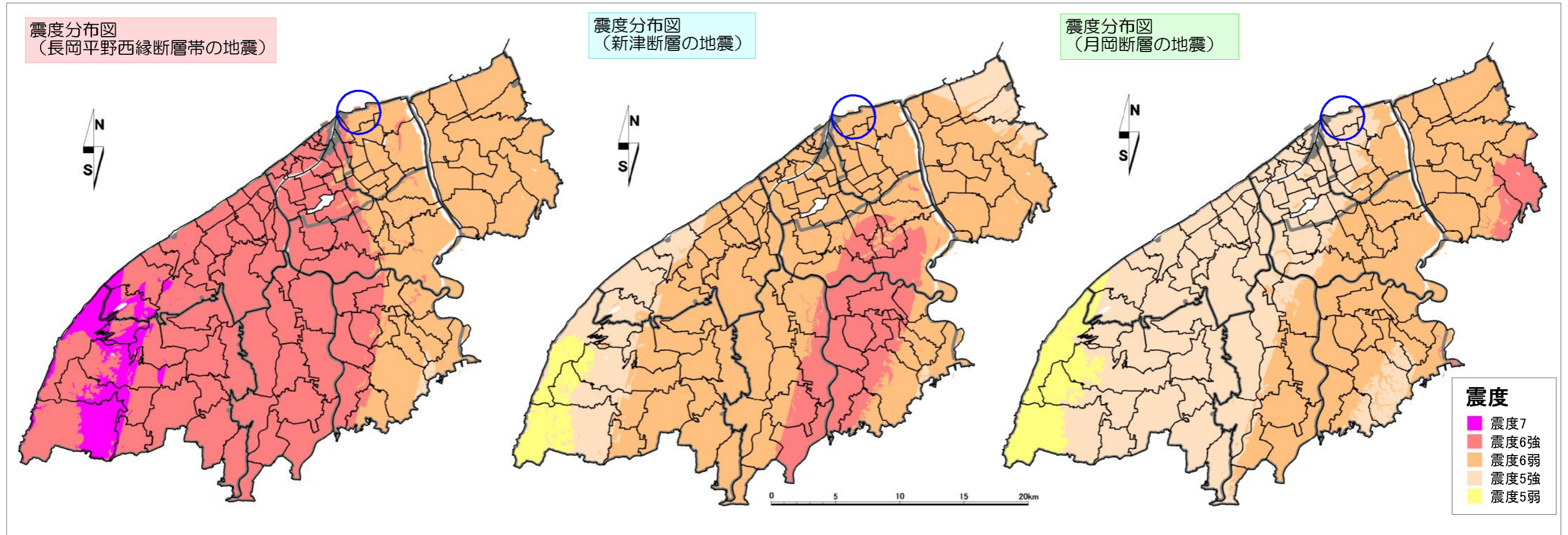
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]山の下小学校	2.1	4	○	3階以上	全階可	—
[ヒ]藤見中学校	15.3	4	○	—	全階可	—
[ヒ]新潟東高等学校	4.4	4	○	—	全階可	—
[ヒ]中地区コミュニティセンター	11.9	3	○	—	2階以上	○
[ツ]山の下まちづくりセンター (旧東区役所)	0.1		—	3階以上	—	○
[ツ]桑名病院	1.0	6	—	3階以上	—	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、避難可能な階数を「○」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 津波による浸水は、地区の広い範囲で想定されている。
水害・土砂	阿賀野川の洪水及び通船川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

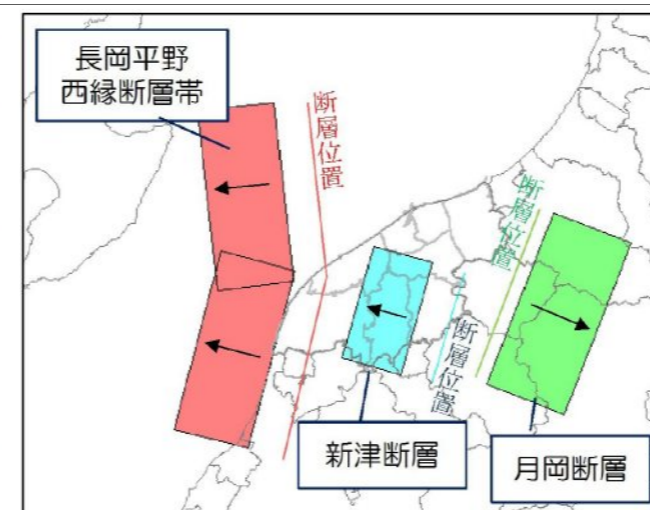
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

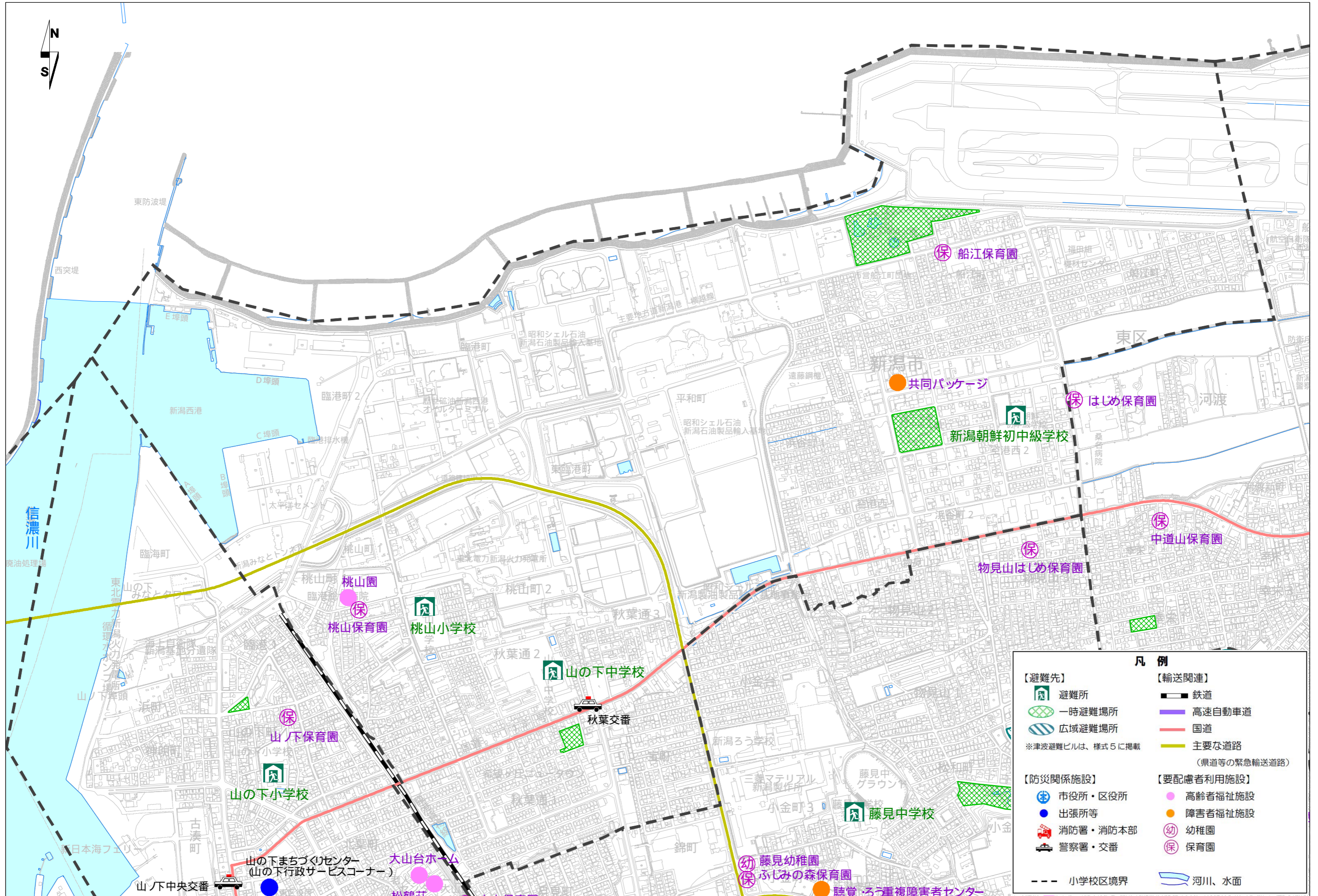
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

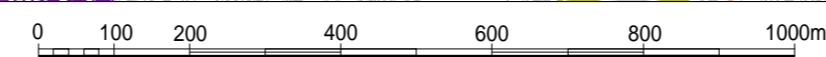


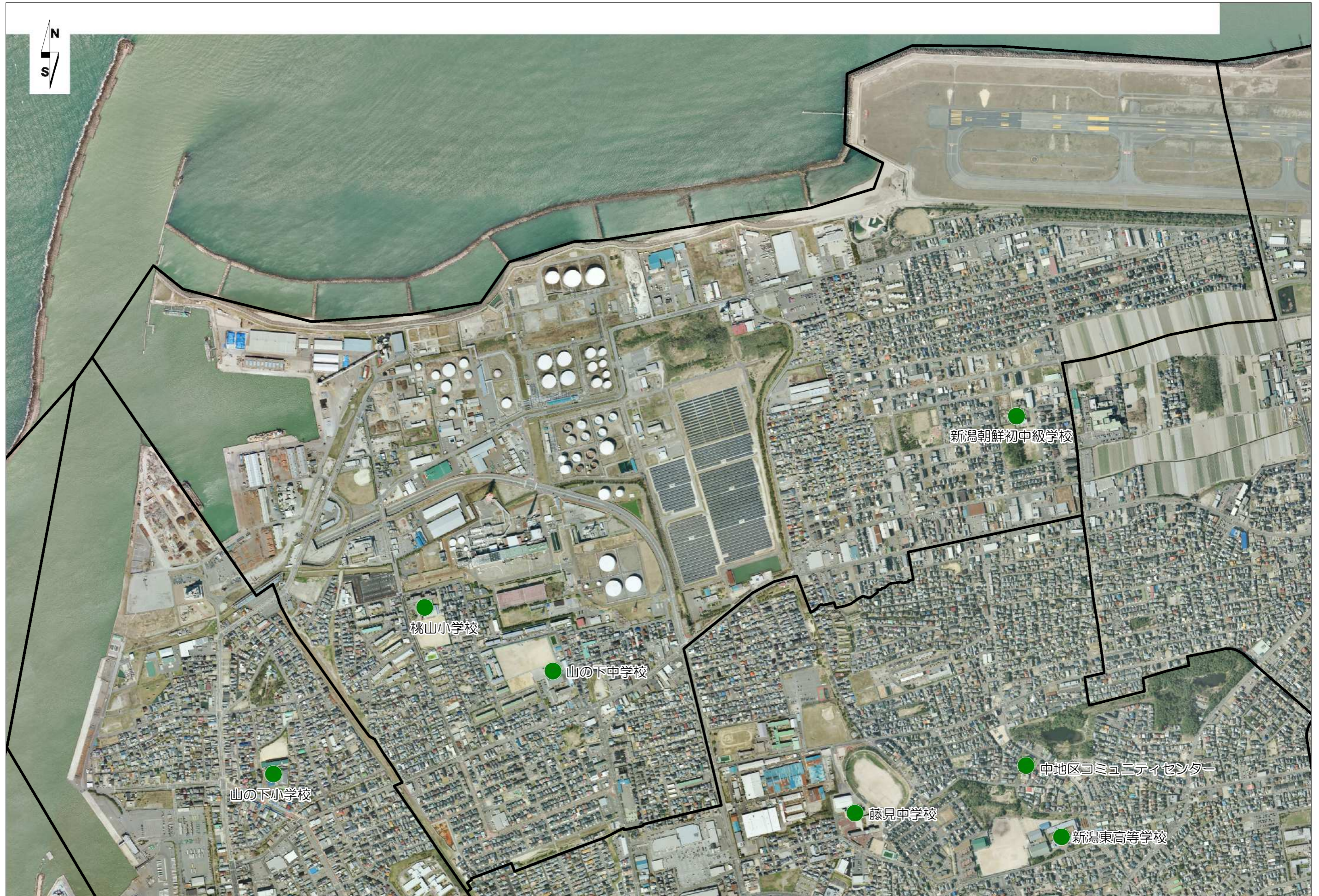
← は、断層の傾きを示しています。



凡例	
<b>【避難先】</b>	<b>【輸送関連】</b>
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
<small>※津波避難ビルは、様式5に掲載</small>	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
<b>【防災関係施設】</b>	<b>【要配慮者利用施設】</b>
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
小学校区境界	河川、水面

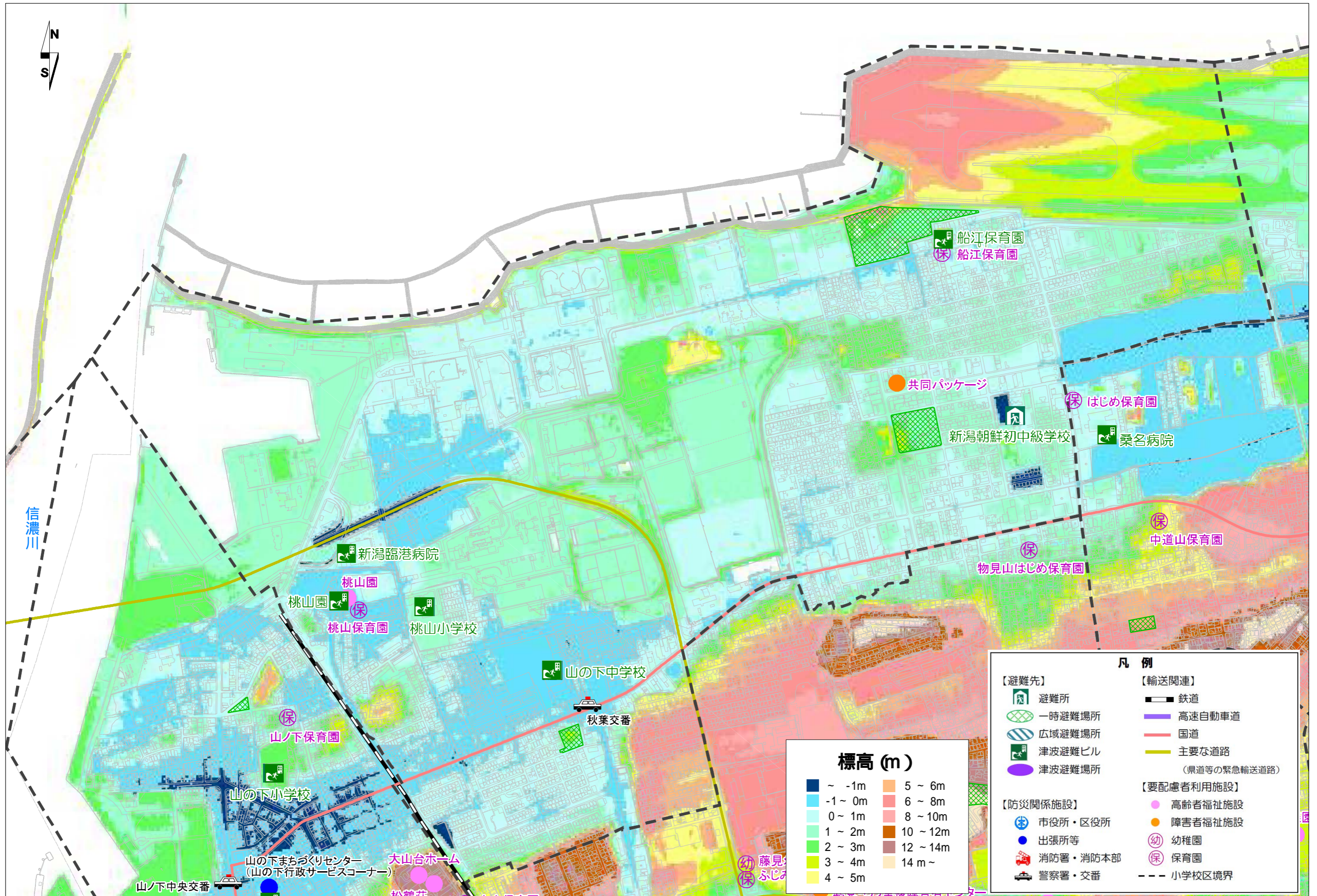
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





〔出典〕 航空写真(平成26年4月)





**標高 (m)**

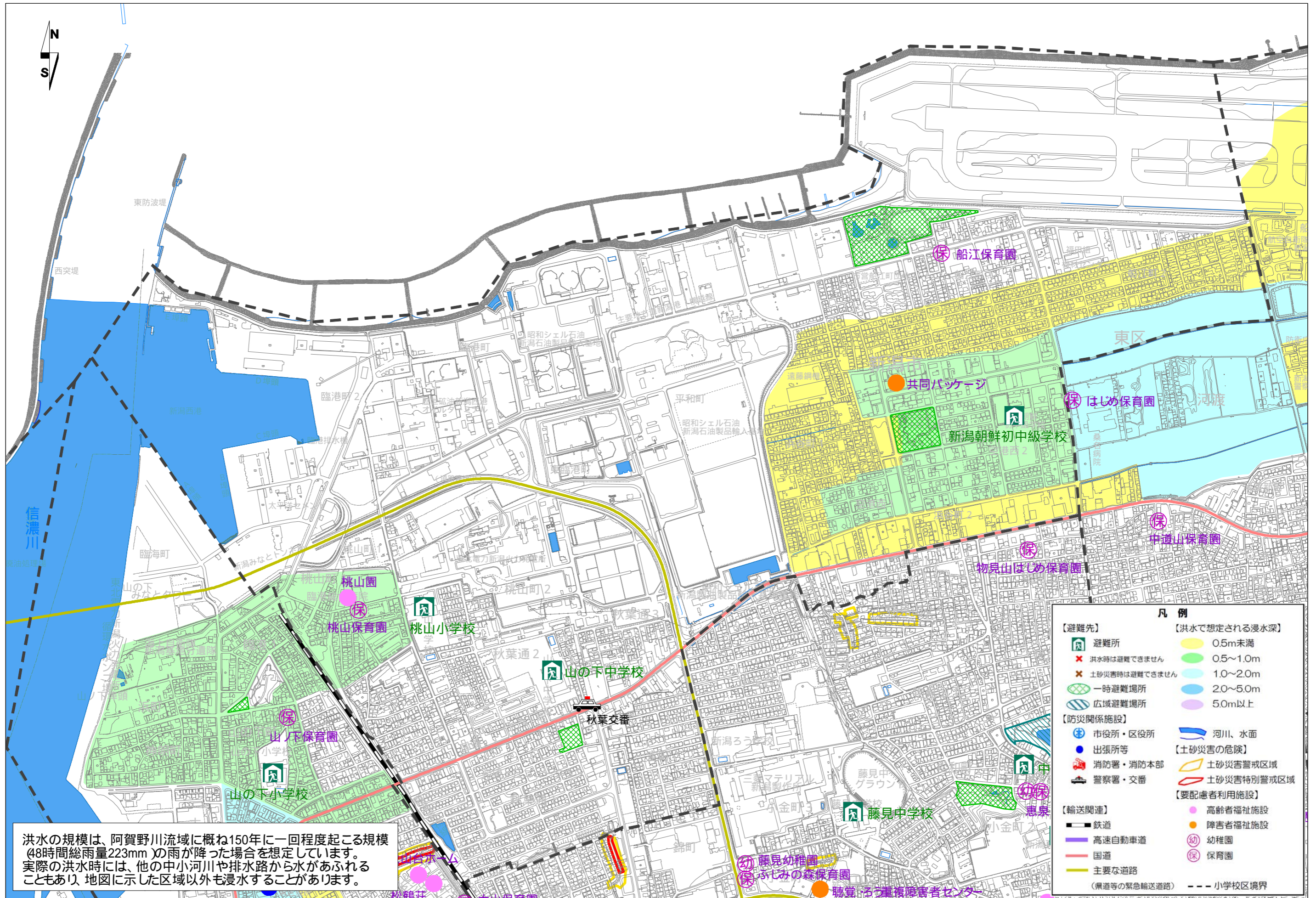
~ -1m	5 ~ 6m
-1 ~ 0m	6 ~ 8m
0 ~ 1m	8 ~ 10m
1 ~ 2m	10 ~ 12m
2 ~ 3m	12 ~ 14m
3 ~ 4m	14 m ~
4 ~ 5m	

**凡例**

<b>【避難先】</b>	<b>【輸送関連】</b>
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
津波避難ビル	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
津波避難場所	
<b>【防災関係施設】</b>	<b>【要配慮者利用施設】</b>
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
	小学校区境界

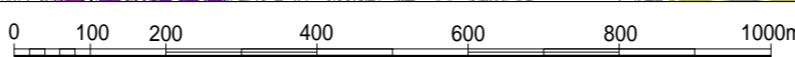
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

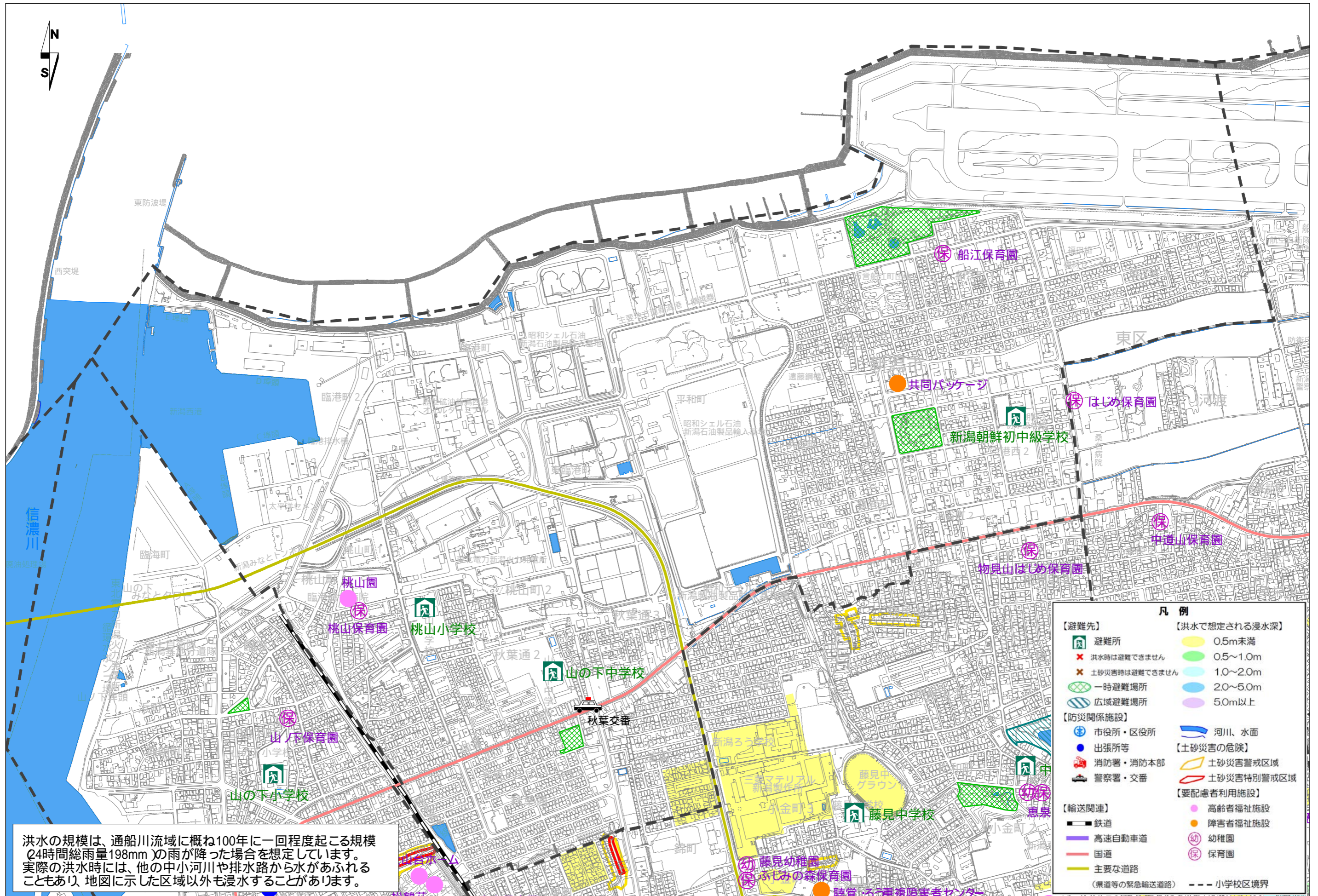
0 100 200 400 600 800 1000m



洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量223mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)





【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
通船川 栗ノ木川下流(新栗ノ木川)浸水想定区域(新潟県,平成17年8月25日)

0 100 200 400 600 800 1000m